

文化的景観研究集会（第13回）

うごく地球、つむぐ風景

— それでも続く暮らしの価値を考える —

2026年9月26日（土） 13:00～17:40

会場：奈良文化財研究所大会議室（一部オンライン配信あり）

主催：奈良文化財研究所 文化遺産部 景観研究室



〈地域らしさ〉の源は、自然基盤にある。地形や地質、水系、気候といった自然条件は、その土地のあり方を決めてきた。その存在は圧倒的で、人の力では変えることはできない。近代の技術は、自然を制し、どこでも同じ暮らしができることを目指してきたが、人々の営みはもともと自然条件に寄り添いながら、安全や快適さを求めてきたのである。

上記はちょうど10年前に刊行した『地域のみかた－文化的景観学のすすめ－』の「変わらない自然基盤」という項の冒頭に記した言葉です。地域の本質が自然基盤に根ざしているという事実は、今も揺らぎません。しかし、私たちが不動のものとして前提に置いてきた自然基盤そのものが、実はダイナミックに変動する存在であるという現実は、この10年でより鮮明になりました。

地震や豪雨、温暖化による生態系への影響、そして地下水脈の変動。こうした「うごく地球」の圧倒的な振る舞いに対し、自然の猛威に直面し、時に抗い、時に受け入れながらも、人々はその土地で再び「風景をつむぐ」ことを諦めません。

一方で、文化的景観をはじめとする文化財保護の枠組みは、本来、定まったモノやコトに価値を置き、それを形に留めて継承することを目指してきました。しかし、自然そのものが変容する時代において、私たちは何を「価値」として守り、次世代へ手渡していくべきなのでしょう。

本研究集会では、中越、熊本、能登といった、各地で起きた大規模な自然災害への対応と、そこから得られた教訓を報告します。うごく地球の上で、なおも続いていく暮らしの価値と、私たちの振り舞い方、そして、これからの文化的景観のあり方について、皆さまと共に考えたいと思います。

◆ プログラム

12:30	受付開始
13:00～13:10	趣旨説明 惠谷 浩子（奈良文化財研究所）
13:10～13:50	【報告1】 石川県輪島市大沢・上大沢―被災後2年半の実態と文化財支援 惠谷 浩子（奈良文化財研究所）
13:50～14:30	【報告2】 石川県能登町鵜川―祭礼が震災後の風景をつなぎ直す 岡村 健太郎（近畿大学）
14:30～14:40	― 休憩 ―
14:40～15:20	【報告3】 熊本県山都町―災害復旧事業と文化財 西 慶喜（山都町教育委員会）
15:20～16:00	【報告4】 新潟県長岡市山古志―震災からの集落再生 澤田 雅浩（兵庫県立大学大学院）
16:00～16:10	― 休憩 ―
16:10～17:40	【パネルディスカッション】 パネリスト：岡村 健太郎、西 慶喜、澤田 雅浩 コメンテーター：三宅 諭（三重大学）、市原 富士夫（文化庁） モデレーター：小浦 久子（奈良文化財研究所）
17:40	閉会挨拶

◆ 登壇者プロフィール

〈岡村 健太郎〉近畿大学建築学部准教授。専門は建築史、都市史、災害史。

〈西 慶喜〉山都町教育委員会生涯学習課文化財係長。専門は考古学。

〈澤田 雅浩〉兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授。専門は災害復興計画、防災・減災まちづくり。

〈三宅 諭〉三重大学大学院工学研究科教授。専門は都市・地域計画、景観まちづくり。

〈市原 富士夫〉文化庁文化資源政策・記念物課文化的景観部門主任文化財調査官。

〈小浦 久子〉奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室客員研究員。専門は都市計画。

〈惠谷 浩子〉奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室室長。専門は風景学、造園学。

◆ 参加申込・お問い合わせ先

下記の申込先に、①氏名（ふりがな）、②所属、③メールアドレス、④会場参加 or オンライン参加、をメールでご連絡ください。申込締切は9月20日です。

なお、オンラインでの配信は報告部分のみとなります。

【問合せ先】独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 文化遺産部景観研究室

〒630-8577 奈良県奈良市二条町2-9-1

TEL 0742-30-6816

E-mail: keikan_nabunken@nich.go.jp